

東舞子小学校 六年 国語

ノートの書き方の例を見ながら、五年生で使っていた国語のノートに課題をしましょう。

家庭学習課題 No.7

「二十四節季」についてわかりましたか？ 昔から日本人は季節の移り変わりを感じ、大切にしてきましたね。今回は、いよいよ俳句や短歌作りです。学校が再開されたらみんなで発表会をしたいですね。

1. 課題内容：「春のいびき」(P.38～P.39)

めあて 「春」を感じる言葉を使って、俳句や短歌を作ろう。

2. 提出方法：次回登校するときに持って行きましょう。

3. 準備するもの：教科書、ノート、筆記用具

(参考資料 「神戸市の六年生のみなさんへ」の手紙)

4. 課題のすすめ方：できた番号には□に✓をいれましょう。

□(1) 教科書の俳句や短歌を声に出して読み、正しくノートに書き写しましょう。

□(2) 次の囲みの中に短歌・俳句の大意(文章で、言おうとしている要点)が書かれています。どの俳句、短歌の大意わかりますか。それぞれの句にその大意を書き写しましょう。

<p>木々の枝から雪解けのしずくがしきりに落ちる音がする。私は歩くのをやめて、その音に聞き入ってしまった。</p>	<p>冬ごもりの虫たちがやっと起き出した啓蟄。虻はさっそく花々の間を忙しく飛び回り、早くも花粉まみれとなっているなあ。</p>	<p>(畑で)春雨でうるおった土・を掘り返すと、土の塊(つちくれ)が美しく光っている。穀物のうるおう季節(穀圃)がやってきましたなあ。</p>
---	---	---

□(3) 次は、あなたが自分の伝えたい「春」を、俳句や短歌に表します。教科書に書かれている二十四節気の六つの言葉や、前の時間に集めた「春」の言葉を使って、俳句や短歌に表しましょう。

(今、会えない友だちや先生に伝えるつもりで、俳句や短歌に表してみましょう。)

□(4) やってみよう。

① 「季節の言葉」の学習は、夏(P.76～77)、秋(P.130～131)、冬(P.182～183)と続きま

② インターネット等で、季節の言葉や、歳時記(さいじき)と読みます。日本の年中行事や、俳句の季語を集めて解説したものです。(有名な俳句や短歌を調べてノートにまとめてみましょう。六年生は、社会科で歴史を学習します。有名な歌人の和歌が集められている「百人一首」に挑戦するのもおすすめです。)

